

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392700023		
法人名	医療法人 三善会		
事業所名	グループホーム めくもり		
所在地	愛知県津島市茱莉町字綿掛55番地		
自己評価作成日	平成27年 1月30日	評価結果市町村受理日	平成28年 3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JiyosvoCd=2392700023-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成28年 1月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外出を多く取り入れたり、様々なボランティアによるイベントへの参加、同法人内の他施設との連携、又利用者が自分たちで出来る事を取り入れたレクリエーションを活用する等で張りのある日々が過ごせるようにしている。一人一人の自信の持てる事を見つけ、一緒に行ったり、頂いたお花を一人で生ける方には任せてしまったり、饅頭作りでは館を皮で包みこむのが職員より上手い方もいて、そんな場面では頼んだり任せたりで、過剰に手を出し過ぎない事も大切と心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人が経営するグループホームで、病院・老健・デイサービスと共に医療・看護・介護を行う複合施設の一つである。事業所相互にサービス面で連携しており、利用者の状態に応じて他施設への転居などがスムーズに行える体制が確立されていて、利用者や家族の安心に繋がっている。
2ユニット構成のホームで、通常はユニット長を中心に日々の支援が行われている。ホーム長・ユニット長・職員間の信頼関係は厚く、風通しの良い職場環境である。職員の意見を採り入れて設置した居間のこたつは、自宅で寛ぐ温かみを感じられ、壁面に飾られた利用者や職員が共同制作した作品からは季節感が感じられる。調理や洗濯なども利用者と一緒にするなど、自宅に居るような生活ができているホームであり、名前の通り、“めくもり”が感じられるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はあるが全職員が共有するまでには至ってはない、一目見て理解が出来るようわかりやすい理念を作っていければと考えている。	昨年定めたホーム理念は抽象的だったためか、職員間の共有に至っていない。管理者を中心に、職員の自主性に重きを置いた、誰が見ても解りやすく共有しやすい理念作りを目指す意向をもっている。	管理者だけの想いに終わらないよう、職員間で共有し浸透を図る努力を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の喫茶店を利用したり、近所を散歩して地域の方と交流をしている。また幼稚園に行きイベントに参加させてもらったり、地元にあるお寺の住職に来てもらいお話を聞かせていただいている。	年1回ではあるが近所の幼稚園の行事に参加したり、随時近隣の喫茶店に出かけることで地域との交流を図っている。運営推進会議に地域住民の出席があり、住職の法話サービスも続いている。	利用者家族向けの「ぬくもり新聞」のような情報発信を地域向けに行う事で、地域の中で認知症高齢者の中核的な施設としての活動を期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティアの方や、学生の受け入れ等を通してグループホームを理解して頂けるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見を参考にして、サービスに活かせるよう努めている。	奇数月に家族、市・地域包括の職員、民生委員、保育所職員、寺の住職、関連施設職員などを招いて開催している。出席率は良く、地域から意見提案を得て、ホームからは行事報告や季節に添った議題を出している。	目標達成計画を発表し、ホームの取組み姿勢と計画の進捗状況を報告することを議題に盛り込まれたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で市の職員も出席されており、施設の状況など報告している。	運営推進会議には市や包括の職員が定期的に参加しており、ホームの実情は伝わっている。市の要請で緊急利用希望者を介護保険外で受入れた事例もあり、困難事例などは市と連携して対処している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の状態に応じて対応するようにしているが、不穏が著しく他者の混乱を回避するため、状況に応じて各ユニットに通じる扉を施錠をする事がある。	日中は玄関扉を含め施錠は行っていない。昨年からユニット間の扉を施錠して利用者の不穏を和らげる対応を行った事もあるが、随時市職員に相談し、身体拘束に配慮して支援している。利用者に対する言葉の暴力にも注意を払っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待がどういふものかを考えながら、職員同士がお互いに注意をしあうような環境をつくり、職員もストレスをためないように、一人での対応が難しい場合は無理をせず応援を呼んで対応するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方も入居されているということもあり、成年後見制度について学ぶよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来る限り説明をし、理解してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時の家族との話や、利用者様の日常の会話などから要望を聞きだし運営に反映が出来るように努めている。	日々のケアの中で把握した要望は、その都度職員間で共有し支援に繋げている。家族からの要望は施設訪問時や電話での連絡時に聞き出している。運営推進会議に参加する家族とは、会議の中で意見交換している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員個々の意見を聞いたり、ぬくもり全体の申し送りノート、各ユニットごとの申し送りノートにはスタッフ全員が出勤時に目を通してあり、意見交換と情報の共有が出来るようにしている。	一義的にはユニット会議で職員の意見・要望を聞き出し、ユニット長を中心に話し合って解決する仕組みを採っている。「こたつがあると良い」という職員の意見を実行に移すなど、職員の意見を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいを持って働けるような職場環境をつくれるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の内部研修を積極的に利用し、日常業務の中で活かせるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との交流があまり無く、これから増やしていければと思っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み時に困っていることや要望などを聞き、安心して入居できるよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時に、家族の要望などを聞き、少しでも不安が解消できるよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族にとって適切なサービスは何かを、その時の状況や要望を聞き対応するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が利用者を手伝ってもらえるような環境を作るばかりではなく、一緒にソファでくつろいだり何気ない会話を頻繁にするなどして、共同で生活をしている雰囲気を出すように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者に何かあった時に家族にお願いをするだけでなく、家族の要望や意見などを聞き入れ職員の目線、家族の目線の両方から利用者を援助していくように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族だけではなく友人などが気軽に面会に来られる雰囲気作りや、過去の生活歴を会話に取り入れるなどして、利用者の思い出を大切するように心がけている。	近所の人や家族の訪問により、楽しい時間は過ごせている。近隣施設の知人に会いに行く利用者もいて、関係の継続が窺える。おしゃれに興味を持っている利用者には、化粧品やマニキュアを楽しんでもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の間に職員が入り、食事や家事などを一緒に行いながら利用者同士関わってもらい、お互いが助け合える様な雰囲気をつくれるよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、家族からの相談があれば出来る範囲で協力していけるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居申し込み時に、入居前の暮らしがどういう状況だったのか聞き、本人の意向の把握に努めている。	日々の会話や仕草・態度から意向の把握に努めている。調理師免許を持つ利用者は食事の準備を手伝い、生きがいを持って暮らしている。美容に気を使っていた利用者には、おしゃれを楽しんでもらう工夫がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居申し込み時に、以前の生活状況を聞き申し込み表に記入してもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活記録に毎日の様子を記入、スタッフ同士の情報交換により、その方の暮らしぶりを把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活状況を職員や家族との会話等の中から引き出し、本人にとって必要な課題を見つけられるよう努めている。	「介護計画が日々のケアにどのように実行できているか細かく記録したい」との職員からの要望で、生活記録票への書き込みが行われている。これにより、モニタリングがしやすくなり、介護計画に反映しやすくなった。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の生活記録に日常の生活を記入し職員間で情報の共有が出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとり変化する状況に合わせて適切なサービスを提供できるよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	敷地内の散歩を積極的に行い、気分転換を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員が付き添い、定期的に受診している。家族が付き添う場合は家族に最近の状況をわかりやすく説明している。また医師に伝わりやすいように文章にして渡すこともある。	利用者の殆どが隣接系列病院を主治医に選択し、ほぼ毎月受診して同時に健康チェックを受けている。提携外の病院受診を行っている利用者は、病状などが医師に伝わるように、付き添いの家族に申し送っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が週一回来所し、利用者の状態を把握している。利用者の状態に変化がみられたときは看護師に相談し、適切な治療を受けられるよう連絡を密に取るようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師や家族・相談員と連絡を取り、退院の時期や退院後の生活について本人に最適な状況を話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化を見ながら、本人、家族、医師、職員間で話し合い、事業所で出来ることを納得がいく形で支援していく。	利用契約時に重度化・終末期におけるホームの方針を説明し、同意の署名を得ている。日常的な医療行為が必要になった時、入浴・経口摂取ができなくなった時などを目安に、家族、主治医、栄養士、看護師などと相談しながら転居先を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルは作成し、同法人内の看護師との連携はとれているが、職員一人ひとりの実践力は不足していると感じている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、防災訓練を定期的に行っている。	年に2回の防災訓練は、夜間想定避難誘導を中心とした訓練である。非常食の備蓄や水害時の避難場所の確保もできており、隣接施設の職員との連携体制もできている。	災害時にスムーズに連絡が取れるよう、職員間の連絡網の整備や非常通報訓練、実際に利用者も参加しての消火訓練を行う事を望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人の性格や、その時々表情をみて言葉を考え話しかけるようにしている。	人生の先輩として敬う気持ちで声掛けを行うよう心掛けている。トイレや入浴介助時には、尊厳・プライバシーの確保について十分に配慮して個別支援が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者様に選択、自己決定が出来るような環境をつくっていく。おやつのお菓子やジュースなど数種類を見てもらい自分の好みの物を選んでもらう等、ちょっとした事でも利用者が選ぶ場を持てるよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日によって利用者のペースも変わってくるので、その日の状態をみて食事作りや洗濯物の手伝いなどしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員と一緒に着たい服を選ばれたり、希望があれば化粧やマニキュアなどをしてもらい、身だしなみに気を使ってもらえるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは決まっているが、利用者と一緒に出来る範囲で手作りして提供している	関連施設の栄養士が立てた献立に基づいて食材を調達し、利用者も手伝って職員が交代で調理を行っている。ユニットごとの調理に変えたことで、利用者が手伝える範囲も増えてやりがいも出てきた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は毎食時チェックして確認している。食事摂取量や水分摂取量が少ない方には食事の形状を変えてみたり、声掛けを工夫してみたり、好みの飲み物を提供するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛をして歯磨きをしてもらっている。自分で出来ない方には職員が介助している。人によっては歯磨き後、歯間ブラシを使って口腔内の清潔に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレでの排泄を心がけている。排泄の間隔を記録し排泄パターンを把握するようにしている。排泄が近くなると落ち着きが無くなったりする場合もあるので、トイレに行きたいというサインを見逃さないようにしている。	1日を通して排泄の状況をチェック表に記録し、利用者毎の排泄パターンに添ったトイレ誘導を行っている。夜間はオムツ対応であっても、日中は布パンツで過ごせる利用者もおり、自立に向けての支援を続けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を無理の無いように多く取ってもらったり、歩く等の運動をしてもらっている。お腹の張り具合や排泄の間隔などにも注意をしている。乳酸菌飲料を定期的に飲まれている方もみえる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	なるべく職員のタイミングではなく、利用者のタイミングで入浴出来るように努めている。入浴を拒否される方には誘い方を工夫してみたり、夜に入浴を勧めたりしている。	快適な入浴を支援するため、殆ど毎日、午前と午後に湯を張り、適温な状態を保っている。毎日や1日おきの入浴希望など、利用者の希望に合わせた入浴支援であり、入浴時間の希望にも柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり生活習慣が違うので、その人に合った安眠や休息をしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の変更等があれば、その人の状態や様子の変化に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理が得意だった人にはご飯を作ってもらったり、洋裁を仕事にしていた方には裁縫をしてもらったり等している。イベント時の作品作りなどはスタッフと一緒に作成して出来上がった喜びを味わっていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全員の方ではないが家族と時々買い物や外食等に行かれている。少人数でこまめに出かけ買い物などを楽しむ機会を増やした。誕生日には本人に合わせて外出している。	天気の良い日は極力散歩に出かけるように心がけている。利用者毎に担当職員が決められており、レクリエーションの計画の中に外出支援も組み込まれている。誕生日に喫茶店に外出するなど、利用者の希望に合わせた外出支援も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族同意の上で日常的に所持されている方もいる。買い物や喫茶などの外出にはレジで利用者にお金をだしてもらい支払いをしてもらう時がある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から電話があれば本人様に取りつぎ、希望があればご家族へ連絡をしている。毎年、利用者様からご家族へ暑中見舞いや年賀状を送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせたインテリアや飾り付けをして季節感を味わってもらったり、心身共に快適に過ごす事が出来るよう温度管理や匂いにも気を使っている。清潔に心がけて汚れを見つけたら常に綺麗にしている。	玄関を入ると利用者それぞれの願いが書かれた絵馬が飾られていたり、利用者と一緒に作った季節感あふれる作品が展示されていて温もりが感じられる。リビングの片隅には畳が敷かれ、こたつが置かれており、あたたかも自宅できつろぐ感じが味わえる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下から外の景色が見える場所にソファを置いたり、畳のスペースを作って気の合った人同士がくつろいだり、一人ひとりが自分の好きな場所で落ち着いて過ごすことが出来るよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を活かして過ごす事が出来るように、本人様が大切にされている物など持ち込まれている方もいる。好きな写真やポスターを貼ったり、ご自身の作品やイベントのプレゼントなどを工夫して飾っている。	中庭を囲んだ居室は、静かで落ち着いた造りである。入居のために新調したと思われる家具も見られるが、自宅で使用していた思い出の詰った家具も見られ、家族との写真が今までの生活を物語っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に配慮し、利用者のレベルに応じて伝い歩きができるような家具の配置を心がけている。自分の部屋がわからない方には、部屋の入り口に手作りの表札をつくり自分の部屋だと認識してもらえるような工夫をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392700023		
法人名	医療法人 三善会		
事業所名	グループホーム めくもり		
所在地	愛知県津島市葉苅町字綿掛55番地		
自己評価作成日	平成27年 1月30日	評価結果市町村受理日	平成28年 3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JkyosvoCd=2392700023-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成28年 1月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外出を多く取り入れたり、様々なボランティアによるイベントへの参加、同法人内の他施設との連携、又利用者が自分たちで出来る事を取り入れたレクリエーションを活用する等で張りのある日々が過ごせるようにしている。一人一人の自信の持てる事を見つけ、一緒に行なったり、頂いたお花を一人で生ける方には任せてしまったり、饅頭作りでは餡を皮で包みこむのが職員より上手い方もいて、そんな場面では頼んだり任せたりで、過剰に手を出し過ぎない事も大切と心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はあるが全職員が共有するまでには至ってはない、一目見て理解が出来るようわかりやすい理念を作っていければと考えている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の喫茶店を利用したり、近所を散歩して地域の方と交流をしている。また幼稚園に行きイベントに参加させてもらったり、地元にあるお寺の住職に来てもらいお話を聞かせていただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティアの方や、学生の受け入れ等を通してグループホームを理解して頂けるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見を参考にして、サービスに活かせるよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で市の職員も出席されており、施設の状況など報告している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の状態に応じて対応するようにしているが、不穏が著しく他者の混乱を回避するため、状況に応じて各ユニットに通じる扉を施錠をする事がある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待がどういうものかを考えながら、職員同士がお互いに注意をしあうような環境をつくり、職員もストレスをためないように、一人での対応が難しい場合は無理をせず応援を呼んで対応するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方も入居されているということもあり、成年後見制度について学ぶよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来る限り説明をし、理解してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時の家族との話や、利用者様の日常の会話などから要望を聞きだし運営に反映が出来るように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員個々の意見を聞いたり、ぬくもり全体の申し送りノート、各ユニットごとの申し送りノートにはスタッフ全員が出勤時に目を通してあり、意見交換と情報の共有が出来るようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいを持って働けるような職場環境をつくれるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の内部研修を積極的に利用し、日常業務の中で活かせるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との交流があまり無く、これから増やしていければと思っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み時に困っていることや要望などを聞き、安心して入居できるよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時に、家族の要望などを聞き、少しでも不安が解消できるよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族にとって適切なサービスは何かを、その時の状況や要望を聞き対応するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が利用者に手伝ってもらえるような環境を作るばかりではなく、一緒にソファでくつろいだり何気ない会話を頻繁にするなどして、共同で生活をしている雰囲気を出すように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者に何かあった時に家族にお願いをするだけでなく、家族の要望や意見などを聞き入れ職員の目線、家族の目線の両方から利用者を援助していくように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族だけではなく友人などが気軽に面会に来られる雰囲気作りや、過去の生活歴を会話に取り入れるなどして、利用者の思い出を大切するよう心がけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の中に職員が入り、食事や家事などを一緒に行いながら利用者同士関わってもらい、お互いが助け合える様な雰囲気をつくれるよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、家族からの相談があれば出来る範囲で協力していけるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居申し込み時に、入居前の暮らしがどういう状況だったのか聞き、本人の意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居申し込み時に、以前の生活状況を聞き申し込み表に記入してもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活記録に毎日の様子を記入、スタッフ同士の情報交換により、その方の暮らしぶりを把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活状況を職員や家族との会話等の中から引き出し、本人にとって必要な課題を見つけられるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の生活記録に日常の生活を記入し職員間で情報の共有が出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとり変化する状況に合わせて適切なサービスを提供できるよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	敷地内の散歩を積極的に行い、気分転換を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員が付き添い、定期的を受診している。家族が付き添う場合は家族に最近の状況をわかりやすく説明している。また医師に伝わりやすいように文章にして渡すこともある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が週一回来所し、利用者の状態を把握している。利用者の状態に変化がみられたときは看護師に相談し、適切な治療を受けられるよう連絡を密に取るようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師や家族・相談員と連絡を取り、退院の時期や退院後の生活について本人に最適な状況を話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化を見ながら、本人、家族、医師、職員間で話し合い、事業所で出来ることを納得がいく形で支援していく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルは作成し、同法人内の看護師との連携はとれているが、職員一人ひとりの実践力は不足していると感じている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、防災訓練を定期的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人の性格や、その時々表情をみて言葉を考え話しかけるようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者様に選択、自己決定が出来るような環境をつくっていく。おやつのお菓子やジュースなど数種類を見てもらい自分の好みの物を選んでもらう等、ちょっとした事でも利用者が選ぶ場を持てるよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日によって利用者のペースも変わってくるので、その日の状態をみて食事作りや洗濯物の手伝いなどしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員と一緒に着たい服を選ばれたり、希望があれば化粧やマニキュアなどをしてもらい、身だしなみに気を使ってもらえるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは決まっているが、利用者と一緒に出来る範囲で手作りして提供している		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は毎食時チェックして確認している。食事摂取量や水分摂取量が少ない方には食事の形状を変えてみたり、声掛けを工夫してみたり、好みの飲み物を提供するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けをして歯磨きをしてもらっている。自分で出来ない方には職員が介助している。人によっては歯磨き後、歯間ブラシを使って口腔内の清潔に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレでの排泄を心がけている。排泄の間隔を記録し排泄パターンを把握するようにしている。排泄が近くなると落ち着きが無くなったりする場合もあるので、トイレに行きたいというサインを見逃さないようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を無理の無いように多く取ってもらったり、歩く等の運動をしてもらっている。お腹の張り具合や排泄の間隔などにも注意をしている。乳酸菌飲料を定期的に飲まれている方もみえる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	なるべく職員のタイミングではなく、利用者のタイミングで入浴出来るように努めている。入浴を拒否される方には誘い方を工夫してみたり、夜に入浴を勧めたりしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり生活習慣が違うので、その人に合った安眠や休息をしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の変更等があれば、その人の状態や様子の変化に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理が得意だった人にはご飯を作ってもらったり、洋裁を仕事にしていた方には裁縫をしてもらったり等している。イベント時の作品作りなどはスタッフと一緒に作成して出来上がった喜びを味わっていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全員の方ではないが家族と時々買い物や外食等に行かされている。少人数でこまめに出かけ買い物などを楽しむ機会を増やした。誕生日には本人に合わせて外出している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族同意の上で日常的に所持されている方もいる。買い物や喫茶などの外出にはレジで利用者にお金をだしてもらい支払いをしてもらう時がある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から電話があれば本人様に取りつぎ、希望があればご家族へ連絡をしている。毎年、利用者様からご家族へ暑中見舞いや年賀状を送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせたインテリアや飾り付けをして季節感を味わってもらったり、心身共に快適に過ごす事が出来るよう温度管理や匂いにも気を使っている。清潔に心がけて汚れを見つけたら常に綺麗にしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下から外の景色が見える場所にソファを置いたり、畳のスペースを作って気の合った人同士がくつろいだり、一人ひとりが自分の好きな場所で落ち着いて過ごすことが出来るよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を活かして過ごす事が出来るように、本人様が大切にされている物など持ち込まれている方もいる。好きな写真やポスターを貼ったり、ご自身の作品やイベントのプレゼントなどを工夫して飾っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に配慮し、利用者のレベルに応じて伝い歩きができるような家具の配置を心がけている。自分の部屋がわからない方には、部屋の入り口に手作りの表札をつくり自分の部屋だと認識してもらえるような工夫をしている。		